

令和8年度

山形市立第六小学校 校内研究の概要

1 研究テーマについて

仲間とともに、自ら学びに向かう子どもの育成（5年次） ～子ども理解をベースにした授業づくり～

本校では、「笑顔あふれる子ども」の育成を学校教育目標に掲げ、次のような子どもの姿をめざして教育活動を行っている。

- (1) 学習大好きかしこい子ども「かしこく」（確かな学力）
- (2) みんなを大事に豊かな子ども「ゆたかに」（豊かな心）
- (3) 明るく健やか元気な子ども「すこやかに」（健やかな体）

1. 社会的背景から

今、子ども達を取り巻く社会環境は目まぐるしく変化している。コロナウィルス感染症によって世界中が経済、医療、教育など様々な場面で問題を抱えることとなり、従来のやり方を見直し、新しい方法を模索することとなった。子ども達が成人して社会で活躍する頃には社会構造や雇用環境が大きく変化し、子ども達が就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになると指摘されている。こうした時代の変化の中で、特に「学びに向かう力」は、自分を見失うことなく未来を切り開いていくために、また、変化が激しく先行き不透明な 21 世紀の社会を生き抜く上で必要となるであろう。

新学習指導要領では、「主体的」「対話的」「深い学び」「探究的な学習」などを大切にして学習していくことが求められるようになった。特定の教科等にとどまらず学校教育全体を通じて、「どのように学ぶのか」という学びの質や深まりを重視していくことが必要になってきている。

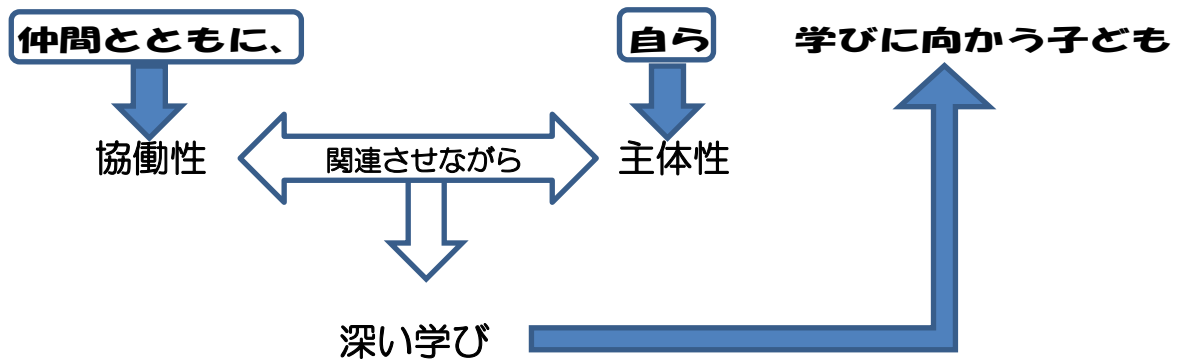
これらのことから、物事を自分事としてとらえ、考え、社会や他者と関わりながら自己実現しようとする子どもの姿を目指し、研究主題を設定した。

2. これまでの取り組みとめざす子どもの姿

本校では、学校経営構想の中で育成を目指す資質・能力でもある「主体性と協働性」を特に培っていかねばならないと共通理解されている。そこで、「仲間とともに＝協働性」「自ら＝主体性」という二本柱で、学びに向かう子どもの育成に取り組んできた。「仲間とともに、自ら学びに向かう子どもの育成」のためには、「子ども理解をベースにした授業づくり」が必要である。子どもたちのよい姿が見られたが、さらに仲間とともに、自ら学びに向かう子どもを育成するためにも、今年度もこのテーマで学校研究を進めていく。

また、「子ども理解をベースに」というテーマで研究に取り組むにあたり、授業での子どもの育ちについて話し合っていくことは重要だと考えている。そこで、子どものみとり方についてさらに焦点をあてて、子どもの思いや願いに耳を傾け、一人一人が何を求めているのかを考えたり、「どうしてその子がこう考えた（行動した）のかな。」と子どもの言動の奥にあるものについて考えたりするなどして、教師が子どもを理解し続けようとしながら授業に取り組んでいくことを研究の核として進めていきたい。

以上のことから、研究主題を「仲間とともに、自ら学びに向かう子どもの育成」、サブテーマを「子ども理解をベースにした授業づくり」と設定し、学校教育目標を具現化していきたいと考えた。



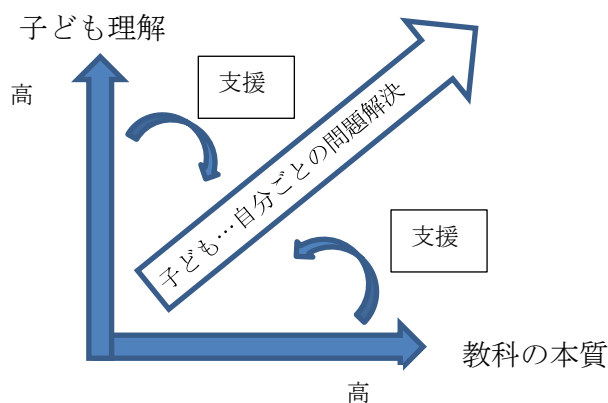
2 研究の内容と方法について

1. 研究の内容について

(1) 子ども理解をベースにした授業づくり

- ①子どもの姿（言動、行動）で語り合う。～教師のみとり方の向上 = 授業力の向上～《重点》
 子どもの具体的な姿を根拠として話し合うことで、何が見え、どのように解釈し、価値づけたのかを語り合っていく。一人一人が何を求めているのかを考えたり、「どうしてその子がこう考えた（行動した）のかな。」と子どもの言動の奥にあるものについて考えたり話しあったりすることを通し、子どもの育ちを知ると共に、教師自身の子どもを見る目を鍛えることは、教師の授業力が向上することにつながる。
- ②子どもの見方や考え方の広がりや深まりにつながるように、教科の本質を考える。
 教科の本質・教材の子どもにとっての価値について吟味する。指導案を書くときに、教科の本質を捉え、記述する。

《授業に対する教師の向き合い方》



あまり考えず、本質までしっかり落ちないと、ただの教材論になってしまう。
 しかし、考えすぎると、こちらのベクトルが強すぎて目の前の子どもたちを無視した授業になってしまうことが多くなる。

- ③長期的な見通しを持って授業に望むためのカリキュラム・マネジメント表の作成。
 子どもの実態とめざす子ども像に応じて教育計画を立て、見直して修正していく。

(2) 研究の日常化

- ①授業を通覧したり開いたりして、いつでも見て学べるようにする。
 日常的な実践を見合ったり全校の子ども達の様子をみとったりできるようにするために、授業を通覧したり授業を開いたりして、誰もがいつでも見て学べるようにする。

②実践交流の時間を定期的に設ける。(月2回程度)

日常の授業実践の交流(取り組みの成果や課題、指導上の悩み等)を中心に、事前研・事後研も必要に応じて行う。

2. 研究の方法について

(1)「個人テーマ追究型」授業研究会の実施…全員(短時間勤務の先生を除く)が研究授業を行い、研究主題の実現に迫る。

目的	・教師自身が「自分の学びたいこと」を選択する。(主体性) ・学年、ブロックを超えたメンバーと知恵を出し合う。(協働性) ⇒先生方のモチベーションを高め、職員室のチーム力を向上させる。
具体的な 進め方	①個人テーマを考える ②個人テーマの集約 ③個人テーマの交流・最終決定(その後、交流するためのグループを異学年で編成する。2～4名程度) ④グループの実践交流(月2回20～30分ほど) ⑤公開授業(1,2学期に1回ずつ) ⑥情報共有(グループでの交流・事後研の内容をデータ入力。学習指導部がとりまとめてお任せ公務で配信し、ほかのグループの研究内容を共有) ⑦1,2学期末の全体研では、違うグループの先生方と実践を交流する。 ⑧個人テーマに基づく研究のまとめを2月末までに作成する。

(2)校内研修会の実施…学びたい分野の専門家の招聘希望を集約し、学習指導部で依頼。

(3)校外研修の推進…県内他校や県外校への視察、研修(オンラインを含む)への積極的な参加を呼び掛ける。

3 役割分担について

- ・授業研究会等の日程調整(研究主任・教務主任)
- ・指導案・研究のまとめの原案作り(研究主任・研究副主任)
- ・全体会の司会・記録・準備など(学習指導部)
- ・渉外(教頭・教務主任・研究主任)
- ・研究の日常化の推進(全員)
- ・情報共有・事後研等の紙面とりまとめ(研究主任・研究副主任)

4 年間計画

4月	今年度の研究構想・全体計画・指導案提案検討	
5月	グループ研修会 情報研修	
6月	グループ研修会	研究授業
7月	グループ研修会 全体会	
9月	グループ研修会	
10月	グループ研修会	
11月	グループ研修会	
12月	グループ研修会 全体会	↓
1月	グループ研修会	
2月	今年度のまとめと振り返り・次年度の研究構想	